

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

| | | | |
|-----|-----------------------------------|------|---------------------|
| 法人名 | 社会福祉法人 長岡福祉協会 | 事業所名 | こぶし24時間ケアサービスステーション |
| 所在地 | (〒 940 - 0098) 新潟県長岡市信濃2-6-18 | | |

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24時間365日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

| | | | |
|----------------|------------------|------------------|------------------|
| 事業所自己評価 実施日 | 西暦 2023年 9 月 30日 | 従業者等自己評価 実施人数 | (19) 人 ※管理者を含む |
|----------------|------------------|------------------|------------------|

【運営推進会議における評価の実施概要】

| | | | |
|----------|--|-----------|---------------------|
| 実施日 | 西暦 2023年 2 月 7 日 | 出席人数 (合計) | (16) 人 ※自事業所職員を含む |
| 出席者 (内訳) | <input type="checkbox"/> 自事業所職員 (5 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (0 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (0 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (0 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (3 人) <input type="checkbox"/> その他 (5 人) | | |

■ 前回の改善計画の進捗評価

| 項目 | (令和5年度に向けて) 前回の改善計画 | (令和5年度) 実施した具体的な取組 | (令和5年度) 進捗評価 | |
|---------------------------|--|---|--|---|
| I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10) | <ul style="list-style-type: none"> ヘルパー全体として理念・運営方針・業務目標を共有し、理解した上で業務を遂行する。 内服事故については、訪問看護事業所や薬局等と連携し、事故を未然に防ぐ対策を強化していく。 事業所の運営状況を客観化するため「会報」を作成し、推進委員に定期発行する。 災害（特に水害）や感染症による事業運営困難時における対応マニュアルの適宜更新及び職員周知を行い、発生時に速やかに利用者の安全、安心したサービス提供が継続出来るようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 4月に理念・運営方針・業務目標を共有し、理解した上で業務を遂行している。 内服事故について、毎月委員会で評価反省をした。内服事故0日継続を目指し意識づけを行った。薬局に相談し薬カレンダーを本人が使いやすいものに工夫した。 推進委員に「会報」を毎月発行し定期随時の利用者状況・運営状況を伝えさせてもらった。 園全体で災害のBCPの見直しを定期的に行っている。事業所としての職員の動きの確認、職員の緊急連絡網の練習を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> 業務目標の中で、安定した在宅生活が続けられる様に、日ごろの体調変化・気づきを大切に支援を行ったが、終了する利用者が多かった。 内服事故は減ってきている。委員会での話し合い、情報共有していることで効果が出てきている。 推進委員の方に事業所の様子を毎月発信できている。 地震が起きた際、利用者の安否確認の動きは素早くできている。水害の際にも素早く対応できるか訓練が必要。 | |
| II. サービス提供等の評価 | 1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21) | <ul style="list-style-type: none"> 利用者の「その人らしい在宅生活の維持」ができるように、各担当者がしっかり目標を把握し、モニタリングを行い、変化時にはすぐにアセスメントを行い計画書の修正に結び付ける。 チームミーティングを継続する。また、できる限りメンバー全員が参加したミーティングを開催し、事業所としての方向性をその都度伝え、職員の意思の統一を | <ul style="list-style-type: none"> 毎月のモニタリングを行い、サービス提供責任者が確認を行う事で変化時にすぐに対応をしている。 ターミナル期の対応、受け入れを行い、その方らしい最期を迎える為のケアについて関係機関との連携強化に努めた。 計画作成者間、チームミーティングは毎月行っている。職員全員参加のミ | <ul style="list-style-type: none"> 目標に沿ってモニタリングをすることで、計画の見直しも早めに対応できている。 その人らしい暮らしを支えられるように、ご本人の思いを聞き取るように傾聴している。 オペレーター交替時の日々の申し送りを重視し、早めの改善に繋がるように努めている。 |

| | | | | |
|-----------------------------------|---|--|--|--|
| | | <p>図る。</p> | <p>ーティングは不可能な為、毎朝出勤の職員で申し送りをし、問題点等の検討、事業所としての方向性など伝えていった。</p> | |
| | <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22~27)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携強化・発信に努め、適切で良質なケアの提供に繋げる。 ・関連機関との連携方法を適宜見直し、改善を図り、よりフェニックスネットの記録の仕方、相手に伝わる方法の研修を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット委員会を設置し、ICT 機器の使い方、使いやすくする為に関連機関との連携方法など検討を行った。 ・記録の仕方にも工夫する事で昨年以上にフェニックスネットの活用が増えた。 ・6月に記録の仕方、相手に伝わる方法等研修を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を使いやすくするために常に検討し、必要な情報がわかりやすく発信できるように心がけている。 ・以前よりもフェニックスネットを活用し多職種との連携、記録に対しての返信が早くなってきた。 |
| | <p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28~32)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信のみならず、地域の行事や防災訓練等を通じて地域性を知り、課題解決に向けて提案・発信していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・センターでの会報を発行。 ・地域の防災訓練参加 ・クリーン作戦参加 ・文化祭では多くの近隣の方より来て頂き交流が出来た。 | <ul style="list-style-type: none"> ・少しずつではあるが、以前参加していた地域の行事に参加し交流を行っている。今後は、地域の方の介護への意識・興味を持つような活動が必要と思われる。 |
| <p>III. 結果評価 (評価項目 33~34)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・職員全員が「理念」「運営方針」「業務目標」を共通認識し適切で良質なケアの提供を目指す。 ・各担当の利用者に対しての把握に努め、適切で良質なケアの提供に繋げる。 ・フェニックスネットによる多職種、他事業所との積極的な連携と情報ツールとなる「Team」ソフトの情報共有方法の工夫を行っている。 ・利用者のケアや事業所運営に関して職 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎月のミーティング時に園の理念等を確認して意識づけしている。 ・ケアの質の向上の為、外部研修を職員全員に参加してもらうようにしている。 ・職員一人一人の意見をチームミーティングで拾い上げ、適切にケアの提供に繋げた。 ・職員間の意見交換からより良いケアへ繋げる事でご利用者ご家族から信頼 | <ul style="list-style-type: none"> ・上半期の反省点を下半期で改善しケアに結び付けられるように指導している。 ・外部研修で得た成果を皆で共有できるように発信方法の検討必要あり。 ・新たな事業所とフェニックスネットの連携は出来たが、使い方の説明が必要。 ・利用者の状態変化に対し職員が積極的に意見を出し、検討し改善という流れができ、良いケアに繋がっている。 | |

| | | | |
|--|---|---|--|
| | <p>員一人一人が積極的に意見を発信し、安全で安心したケアの提供を目指す。</p> | <p>を頂けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携ツールの「Team」ソフトの情報共有方法の委員会を行っている。全事業所で共有し統一、工夫を行っている。 | |
|--|---|---|--|

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

| 項目 | | (令和5年度) 評価結果 | (令和6年度に向けて) 改善計画 |
|---------------------------|---|--|--|
| 1. 事業運営の評価 (評価項目 1～10) | | <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー全体としての理念・運営方針・業務目標は全職員理解し業務を遂行する事ができた。 ・内服事故について、委員会等で話し合い共有し、また訪問看護からも助言をもらい効果が出た。 ・事業所の運営状況を報告する会報を毎月発行出来ている。 ・災害時における利用者の安否確認をしっかりと行えた。また感染対策の研修を行い理解する事で利用者に対してしっかりと対策を行い、まん延する事はなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・同行訪問や事例検討会を行い、統一したケア、質の向上に努める。 ・定期的にリスクマネジメント委員会を開催し、ヒヤリハット、事故対策等の周知徹底に努め、内服事故等を未然に防ぐ。 ・災害等のBCPを見直し、素早く対応できるように訓練の実施をする。 |
| II. サービス提供等の評価 | 1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21) | <ul style="list-style-type: none"> ・「その人らしい在宅生活の維持」が出来るように、モニタリングを行い、ケアマネに提案し計画書に反映、見直しが行う事ができた。また記録の工夫を実践する事で利用者の今現在の思いを把握する事ができた。 ・チームミーティングの継続、また、サービスの統一の為に日々職員間で集まり、援助内容、方法、不安な事等を話し合う事で援助についての見直しが行えた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・記録方法の研修を行い、見やすさ、分かりやすさを求めスキルアップに繋げる。また、日々の申し送りを見落とさず、変化等を早期発見し対応できるようにする。 ・職員個々のアセスメント能力を高め、利用者の「その人らしい在宅生活の維持」その人の意向に沿った援助に繋げていく。 ・理念・運営方針・業務目標を意識した上で、全体ミーティングを行い、職員1人1人の意見を聞く事で、サービスの質の向上に繋げる。 |

| | | | |
|---------------------------------|---|--|---|
| | <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・記録の仕方や伝え方を研修する事で多職種との連携がスムーズに伝えられ強化できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・多職種の意見やアドバイスを積極的に聞き、関連機関へ素早く、わかりやすい情報発信方法を見直していく。 |
| | <p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域への関りは一定の方々に留まっていた。コロナ関連で地域との交流が出来なかった期間が長かったが、少しずつセンター、事業所としても地域の行事等の参加に機会が増えた。まも～る通信や広報誌を定期的に配布する事で、情報発信にも繋がられた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域への働きかけが必要。交流を図りながら、情報発信に努める。 ・まも～る通信等の広報誌の継続。 |
| <p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・理念・運営方針・業務目標を意識しながら業務にあたった。 ・看取りの方も増えてきている中で短期間の利用でも安心して暮らせる事ができた。と評価を頂いた。 ・フェニックスネットの普及や活用はあまり変わっていない。 ・利用者のケアに対して職員一人一人が積極的に意見を発信出来ていなかった所あり、改善が必要。 | <ul style="list-style-type: none"> ・理念・運営方針・業務目標を意識しながら業務にあたる。 ・職員間での話し合いの機会を増やし、援助の変更、問題事案があった時に早期に対応し、援助の統一、サービスの質の向上に努める。 ・利用者一人一人に対して状態の把握、定期随時サービスの必要性を理解しサービスを提供していく。 ・フェニックスネットによる多職種、他事業所との積極的な連携と情報ツールとなる「Team」ソフトの情報共有方法の改善を引き続き図っていく。 | |

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します